

目的 既に、とりあげてきた高齢者の心的側面の理解に関する問題として、本報告ではその孤独意識と日常生活における対人関係との関連について、対人接触の面から検討し、2・3の知見を得たので報告する。

方法 研究対象はこれまでの報告と同じ数個の事例と在宅者および施設入所者である。いずれも日常生活が自立して行える他人との交際が可能な高齢者である。はじめに、事例を対象に、国民生活時間調査に準じて生活時間調査を行い、生活行動ごとの時間量とこの間の対人接触状況を分析した。次に、多数の高齢者(在宅と施設入所者)について質問紙法により対人接触の状態を調査分析した。

結果 1. 事例の生活時間では生理的生活時間と余暇時間が大部分を占めており、その割合は個別性が可成り大きくみられた。この時間の内容としては最近になり、獲得された生活行動はみられなかった。余暇時間の中ではテレビ視聴時間が多く、社会的行動や家族との接触時間の縮小がみられた。2. 質問紙調査では、在宅と施設入所者では対人接触状況が可成り異なる。対人接触の対象は子、孫、嫁および近所の人の場合に、在宅と施設で接触頻度が明らかに異なり、兄弟姉妹、親戚および友人の場合では同じ程度の接触順位であった。対人接触に関して、いろいろな生活行動を人と共にしたいか否かの期待と実際の一致した第1順位の行動は食事であり、話題としては健康についてが第1位であった。これらの結果を孤独意識との関連で考察する。